

明治・大正の商業文化 引札

引札とは、今でいう商店の「チラシ」のことで、引札の“引く”は客を引く、配ることを意味します。商店では、得意先に夏は団扇や扇子を、年末には引札を多く配りました。引札には、商店名・住所・販売する商品名などを刷り込むほか、その横か上下に恵比寿・大黒や七福神・松竹梅・鶴・亀・富士・高砂など初春の縁起のよい図柄や、美人画、文明開化の影響を受けたハイカラな乗り物、芝居など当時の世相を反映したものが描かれました。客を引きつけるため色も鮮やかで3～5色の多色刷りのものも多く見られます。引札とは単なるチラシではなく、当時の世相を知る貴重な歴史資料なのです。

江戸時代、商業主義の発展に伴って登場した引札は、明治になると盛んに発行されるようになり、それまで木版で刷られていたものが石版となり、線画作成が容易になるなど印刷技術が進歩します。現在残っているものの多くもこの時代を中心としています。大正時代に入り、新聞広告や折り込みの普及、ポスターなど多くの広告媒体が現れ発達し、風格のある手刷りの引札は徐々に姿を消していきました。

▼ 呉服太物・荒物他 中西商店／古町



2月29日(木)～3月26日(火)までの1ヶ月間、直方市立図書館では、筑豊文庫資料室にて、当館で所蔵している引札の展示を行います。ぜひご覧ください。

参考：「ふるさと町家の引札展」NL674 子(郷土書庫禁帯出資料)

★ ★ ★ ★ ★ 筑豊の民話 -長池の竜宮- ★ ★ ★ ★ ★

明治年代の終わり頃まで、下境には長池と呼ばれる深い池がありました。むかしこの池の近くに住んでいた人が、池の周りで木を切っている時、池の中に小さな斧を落としてしまいました。その人は斧を拾うために池の中に入りましたが浅い所にはありません。だんだん深いほうへ進んでいきますと、どうでしょう、華麗な御殿の前に着きました。竜宮です。その人は門番に、斧を探しているうちにここへ来たことを話しますと、門番は竜宮の中に案内して、美しい乙姫様の前に連れて行きました。乙姫様のそばには、牛よりも大きい家のような形をした恐ろしいけだものが眠り込んでいました。乙姫様はその人の話を聞きますと、「その斧はこのけものに当たったので、腹を立てて持ってきている。目を覚ますとあなたの命が危ないからこのまますぐに帰りなさい」と言われました。そこで、その人は急いで元来た通り長池を出て我が家にたどり着きました。

その人の家では、行方不明になった日を命日として、ちょうど三回忌の法事をしている最中であっただけに、家の人には夢かと驚いて、もし竜宮から乙姫様に追い返されなかったら浦島太郎のようになっていたのではないかと大喜びしました。それから人々は、長池から竜宮に行かれたのであるから、池の底はきつと芦屋の海に続いているに違いないと言い伝えました。この長池は大正初めの遠賀川改修工事で埋められてしまい、今ではこの昔話しか残っておりません。

引用：「直方むかしばなし」 N388ノ

【基本情報】 ◇直方市指定文化財 《所在地》直方市山部 西徳寺 《指定年》1988年3月



西徳寺の山門は、直方藩四代藩主の黒田長清の館の西側の門を移築したとされています。薬匠門と呼ばれる形態で、鎌倉時代末から室町時代初めにかけて武家や公卿の館で用いられました。瓦には黒田家の家紋の藤巴が使われています。

第三代藩主黒田長寛が福岡藩主となった後、直方藩は藩主不在が続き、12年後に黒田長清が藩主となりました。それまで直方藩主の館は、現在の殿町の双林院の場所にありましたが、福岡藩主黒田綱政の指示で御館山にあった妙見社（多賀神社）を現在の場所に移し、その跡に新しく館が建てられました。福岡からの加勢夫も加わり、元禄5年に完成しました。直方市中央公民館に展示中の「直方藩主御館絵図」には館の間取りが描かれており、林に囲まれ、いくつもの門がある館で、表門、裏門を備え長い堀を巡らし、勘定所や長屋、馬場を有した本格的なものでした。

直方の歴史を見てきた門を、見に行ってみませんか。

参考：「直方市バーチャルミュージアム」 <http://nogata-virtualmuseum.jp/chronology.php>
「直方市史 上巻」 NL219ノ

はじめの一步 ～郷土資料の紹介～

直方市立図書館にある郷土関係の本を紹介していきます。

郷土の歴史や文化に興味をもってくださいきっかけになればと思っています。

「直方の歴史と文化財」 直方ライオンズクラブ/編
N219ノ

「直方市には、何も無い」本当でしょうか。公園に立つ小さな石碑、昔からある神社、お祭り…。目立たないけれど、私たちのふるさとを作ってきた文化や歴史は、必ずあるはず。直方ライオンズクラブ創立50周年記念事業として出版されたこの本には、写真とわかりやすい解説がついていて、直方の歴史や文化を知ることができます。直方の歴史の入門書となっています。見過ごされがちな地元の歴史や文化を見直し、伝えていく1冊です。

直方市立図書館 直方市山部 301-11 コミュニティのおがた内
TEL 0949-25-2240 FAX 0949-23-3902